

## 令和2年度 就労B工房 事業報告

### ・工房について

利用者が15名になり第1工房だけでは狭くなってきていた時に令和2年3月頃にコロナウイルスが発生して緊急事態宣言も発令されました。そんな中、隣の会社（足場屋）が引っ越す事になり、隣の場所を借りる事が出来て、第2工房として5月のGW明けから作業場所を2つに分かれて作業を行う様にして、第1工房で10～11名、第2工房で4～5名に分けて3蜜にならない様に配慮しながら作業を行っています。

### ・作業について

全体の作業量としてはコロナウイルスの影響もあり、昨年度の同じ時期に比べて少なくなったのが現状です。特に山田園の作業（冠婚葬祭用）は毎年やっていましたが、今年は作業としてありませんでした。それでも繁忙期に入ると例年通りの作業量を頂く事が出来ました。作業が無かったり少ない時の対応が出来なくその場しのぎになっていた為、作業が無い利用者の対応に応える事が出来ませんでした。常に先手を考えながらやっていかないとなりません。

### ・全体を通して

今年はコロナウイルスという今まで経験をした事がない局面になりました。作業はもちろんですが、日常においても常にマスクを着用、手指の消毒、工房の換気を徹底するようになりました。また、例年行なっていたバス旅行やふれあいレクリエーション等の行事も中止になってしまったり、その他にも12月に1名職員が退職する等、様々な状況において利用者さんの中にはストレスを感じている方もいると思います。来年度は今年度の作業状況や作業のやり方、進め方等を職員で話し合い、利用者さんはもちろん、職員も楽しく仕事出来る様な環境を作っていきながらやっていきたいと思っています。

野いちご 就労支援B工房 担当 職業指導員 山本衛

## 喫茶野いちご本年度のまとめと来年度に向けて

本年度は、コロナに始まりコロナに終わった一年になりました。その間、ウエルシップ閉館をはじめ様々な事が起こりましたが、スタッフ一同（職員・利用者さん）みんなで前向きに・精いっぱい取り組んできました。また、周りの方々に支えられ、喫茶はなんとか持ちこたえることができました。マイナスよりもむしろプラスに転じたことも多かったように思います。本当にありがとうございました。

さて、残りも後わずかです。本年度のまとめと来年度に向けての具体案をみんなで創っていきましょう。

### <本年度の取り組みの実績>

#### 1 利用者さんの通所状況

目黒さん、牛田さん、今村さん、村田さんについては、ほぼ100%通所  
田中さんについては約65%の利用率（今は、彼女のペースを大切にします）  
5名全体の通所率は約93% 本当にありがたいことです

#### 2 利用者さんの通所姿勢

どの方も前向きで、喫茶にやりがい感と楽しさを感じ、挑戦したいこともより増えてきていて、うれしい限りです。挑戦内容には？が付くこともあるかと思いますが、まず大切なのは、利用者さんにとって喫茶が、希望や目標に溢れた仕事場であることですね。

#### 3 スタッフの関係づくり

スタッフ（職員・利用者さん）みんなが良いコミュニケーションを図ることができています。利用者さんはとても個性的な方々ばかりですが、仲間関係も良く、トラブルもほとんど出ないことをうれしく感じます。

これまで通り、スタッフ同士はもちろん、お客様、お世話になっている周りの方々、すべての方々に対して「**ありがとうの気持ち**」を常に言葉にしていくことを大切にしていきたいでしょう。

#### 4 店の売り上げと工賃

コロナ禍、売り上げが伸びるわけではないのですが、1年トータルするとそれほど極端な減にならなかったことに安堵しています。特に夏場以降、職員体制の見直し、原材料費の削減、営業方法の変更、近隣の事業所との連携等様々な工夫を実施してきた結果、秋口からは赤字が少しずつ解消されつつあることに成果を感じます。

とはいえ1年を通すと利用者さんスタッフへの工賃は少なからず減少する結果になり、大変に申し訳ないと感じています。本年度の成果を来年度に繋ぎ、工賃アップを図っていきたいですね。

## <具体的な取り組みとまとめ>

コロナ禍の中で様々な取り組みを実施してきました。失敗して周りの方々にご迷惑をおかけしたこともありましたが、総じて大きな財産を得た1年であったと思います。以下、取り組みを振り返ってみます。

### \*コロナ対策

1年間通じてコロナ感染対策を実施してきました。ウエルシップ入館の際に検温・アルコール消毒が促されていますが、喫茶独自に様々な対策を行ってきました。

- ・席数を33から17席に減らし密を回避する
- ・朝、帰り、お客様が帰られた後、テーブルのアルコール消毒を欠かさずに行う
- ・飲食後の歓談はマスク着用をお願いする
- ・お客様用にアルコール消毒液を用意する
- ・ホール及び厨房・事務所では常に換気に心がける
- ・従業員は通所後ただちに検温と体調把握、仕事中はマスク常時必着
- ・昼食・休憩は、狭い事務所ではなく、ホールでとる
- ・コイントレイを利用した金銭の授受・レジでお金を触ったら、すぐに消毒

**これらの対策は、当分の間、継続して実施していきます。**

### \*デリバリー販売の実施

ウエルシップが突然休館になりました。ある日の金曜日に通達があり、翌週の火曜日から完全休館になるということでした。そこで急遽実施したのがデリバリーサービスです。工房、生活介護のご家庭の方や近隣の事業所にご協力いただきました。準備不足で十分な商品がお渡しできないこともありご迷惑をおかけしましたが、沢山の方にご利用いただきました。この実践は多様性という意味で、今後も実施できる取り組みのオプションと考えています。

### \*テイクアウト販売の実施

デリバリー販売と合わせテイクアウト販売も実施しました。この取り組みも功を奏し、少しずつお客様が増えてきました。今現在、金曜日を中心にテイクアウト販売を行い、たくさんのお客様にお買い求めいただけるようになってきました。

こちらの機動力の限界もありますので、無理しすぎない程度で今後も販売の拡大を目指していきたいと思えます。

### \*周りの方々とのつながりを大切に

一般のお客様に来ていただけない状況の中、周りの事業所の方々とのつながりをより大切にしてきました。どの事業所も苦しい状況に変わりはありません。そこで年間数回に渡り、メッセージカードとミニパウンドケーキをセットにしたプレゼントをお渡しして

きました。

メッセージ例

☆今はがまんの時ですね。みんなで頑張りましょう（2月）

☆もう少しのがまんですね。ゆっくりとまちますか（3月）

☆少しずつ始めていきましょうか。みんなが幸せになりますように（5月）

☆今日はみんなと「つながる」大切な日。いつもありがとうございます（3・11）

これらのメッセージカードは、利用者さんスタッフが得意な絵を添え、すべて準備してくれました。

今現在も一般のお客様は少ないですが、毎日最低限の売り上げは出ています。

かもめデイサービスさん、サポートルームさん、焼津福祉会さん、暁さん、社協さん等々・・・皆さまとのつながりのおかげに他なりません。これからも常に感謝の気持ち・つながりを大切にしていきたいと思います。

### \*安くておいしい商品の開発

コロナ禍に限ったことではありませんが、本年度もできるだけ安価でおいしい商品の開発に努めてきました。

- ・お客様から一番いただくありがたい言葉は「この店は安くて、おいしくて、栄養のバランスが取れていることよ」です。1円でも安い材料の購入を毎日のように探し求めてくれたり、メイン・副菜のバランスを十分に考えたメニューの工夫をしてくれたり、については石原さんを中心にした厨房の方々に本当に感謝です。常連のお客様がいて下さるのもこのおかげです。
- ・おでんの売り上げは、去年の1・5倍ほどになっているようです。テイクアウトが重宝されていることが要因にありますが、店の売り上げの重要な商品になりました。お客様から種類を増やしてほしいとのニーズもありますので、今後皆で検討していきたいと思います（安価なさつま揚げの購入・・・会長いつもありがとうございます）。
- ・利用者さんスタッフが中心になって作るパウンドケーキに人気が出て、店に出したものは1日で売り切れる日も出てきました。本当に嬉しい限りです。ケーキの種類開発も皆で研修していきたいと思います。

### \*利用者さんスタッフの奮闘

コロナ禍で一時職員の自宅待機という事態が起りましたが、利用者さんスタッフが「任せてください」とばかりに活躍して下さいました。それがきっかけではありませんが、1年通してみなさん本当に意欲的に仕事に取り組んで下さいました。自分勝手にやりすぎ？という場面もなくはありませんが、これも頼もしさのひとつです。今後も一緒に相談して進めていきたいと思っています。

職員の老化現象が見え始めていますが、その分若いスタッフがフォローしてくれるという良いバランスも生まれてきているような・・・。

## <次年度に向けて>

今現在、ウエルシップでは、喫茶以外での飲食はすべて禁止になっています。館内への配達の仕事ができなくなっているのは、私たちにとってかなりのマイナス材料です。それでも、会場場所から喫茶に移動して食べに来てくれる団体様がいらしたり、店で食べるからと言って予約を入れて下さる団体様もいらしたり、とうれしい変化が出てきています。

コロナ禍は当分続きます。そんな中で次年度は以下のことを目指していききたいと思います。

☆これまでと同様徹底したコロナ対策をしていきます。

☆上述の策を取り入れながら店の売り上げ増を図っていきましょう。

☆それに伴う利用者さんスタッフの工賃アップは必然です。

☆スタッフ（職員・利用者さん）みんなで創意工夫しあい、店の運営を多様化させていきたいですね。

☆周りの方々とつながりと感謝の気持ちはこれからも大切にしていきたいと思います。

☆地域に貢献できる喫茶の在り方を今後も模索・実践していきましょう。

最後に・・・

今現在、野いちごのビジョンを語る方はいません。一昨年、一応 10 周年記念の式や記念誌の作成は実施されましたが、次の 10 年を目指すものではありませんでした。会議や研修等もほとんど実施されていませんが、これはコロナだけの理由ではないと感じます。寂しい限りです。

## 令和2年度 野いちご 生活介護 事業報告

### 活動内容、日課等の取り組みについて

4月に他施設入所の為に、1名が退所したことで、本年度は利用者10名でスタートし、現在に至る。「毎日楽しく通所していただける事業所を目指す。日中活動を通して、様々な体験の機会を増やし、楽しみややりがい等を発見、育て一人ひとりが豊かな生活を送れるよう支援する。」ことを目標に取り組みを行っている。

コロナウィルス感染拡大に伴い、それまでに行っていた下請け作業（シーラック、カネゼンの検品、袋入れ作業）が全く無くなり、活動の中心は、運動支援、創作活動に移行した。

運動支援では、ウォーキングを中心に、室内での体操、ストレッチ、手指の体操、サーキット、ボールを使った機能訓練等を行っている。また、1回/月のボランティア講師によるヨガ教室の継続を行っている。

創作活動では、雑巾や巾着作りなどの裁縫を中心に、フラワーアレンジメント、習字、季節の飾りづくり等を行った。特に裁縫に関しては、針に糸を通すところから始め、布の扱い方、縫い方の基本、直線縫い、簡単な刺繍等を行った。初めての体験であった方が多かったようで、裁縫に興味を持ち、意欲的に取り組む姿が多く見られた。また、作品ができあがっていく工程を体験することで、できあがった時の達成感を感じることができているようであった。

その他の創作活動についても、初めての体験が多く、それぞれに興味を持って参加していただけたようであった。

また、活動の中で、平仮名・片仮名・数字の練習、足し算・引き算・時計の練習等を行った。利用者それぞれの「できること、できないこと」「得意な事、苦手な事」を確認する機会となり、今後の活動の中で、それぞれの利用者が目標を設定する際の、材料の一つとなった。

作業活動としては、資源の回収を引き続き行い、地域の方のお宅や、利用者のお宅にもご協力をいただき、回収の際には、地域の方々との交流の場となっている。

また、資源回収の一環として、分別作業を取り入れ、シュレッダーや鋏を使用する事で、手指の機能訓練にも繋げる活動としても行っている。

### 利用者さんについて

近年、親御さんの怪我や、病気、死亡等によって、緊急時の利用者さんへの対応が迫られる場面があり、日中活動の時間外への対応と、緊急時の対応に向けて、グループホームへの入所が1名、希望する5名が他施設でのショートステイを開始した。

開始当初は、不安定な様子が見られた方もいたが、宿泊回数を重ねていくうちに、徐々に宿泊に慣れ、現在は、参加している利用者の殆どから、「楽しく参加している。」「楽しみにしている」との声が聞かれる。

また、加齢とともに、体力・脚力の低下が顕著にみられる方もおり、個人の体調や、体力レベルを考慮しながら、全員が、毎日30分～1時間程度のウォーキングを行っている。前年と比べ、ペース、距離共に向上してきており、今後も、体力・脚力維持の為に継続していく予定。

そして、加齢に伴い、トイレに関する介助の増加が著しく増えている為、介助が活動中に占める時間の割合も増加している。また、衛生面での問題を抱える方への介助も踏まえ、今後は時間に余裕を持たせた日課づくりを行っていく。

### 来年度について

工賃の支払いに関しては、下請け作業が全くなくなったことで、今年度は繰越金より何とか捻出してきたが、昨年度からは毎月の工賃支給は難しい状況となった。毎月の支給ができない状況であることに対しては、利用者の方々にも繰り返しお伝えして、ご理解をいただけるよう努力しているが、

「通所＝仕事」という思いの利用者さんもいらっしゃることや、「仕事＝やりがい＝生きがい」を目指して、資源回収の継続と共に、昨年度行ってきた創作活動等を、作業活動に繋げていけるように、引き続き検討していく。同時に、介護、介助が必要な方が増加していることも踏まえた日課づくりを行っていく。

本年度は、コロナウィルス感染拡大防止の観点から、特別開所が行えなかったが、本人の希望は勿論のこと、家族の負担軽減にも繋がる土曜日の開所には需要がある。家族の負担軽減が、結果として本人への良い生活環境につながるものとして考え、来年度は可能な範囲で、特別開所を行っていく。